

北海道で存在感高める

【足寄】北海道ちぬやファーム（足寄町）が、足寄町内で2棟目のジャガイモ集出荷貯蔵施設の建設に着手した。親会社で冷凍食品メーカー大手「味のちぬや」（香川県三豊市、松村信人社長）の今津秀会長が3日、町内で開かれた地鎮祭に出席、工事の安全を祈願した。今津会長に大型投資の狙い、北海道・足寄町内での今後の事業展開について聞いた。

（佐藤匡聡）

親会社「味のちぬや」今津秀 会長に聞く

道内生産者と連携

―北海道を「第3の創業地」と位置付ける理由は。

当社は香川で創業し、愛媛で宇和工場を設けるなどして第2の創業を果たした。創業50周年の節目に北海道加ト吉（赤平市）をグループ化し、原料生産から製造までを一体的に手掛ける体制を整えた。物流が大きく改善され、生産量の拡大にもつながる。大きな転換点と捉えている。

―原料確保の方向性と、道産に対する認識は。



原料がなければ事業は成り立たない。天候不順などのリスクもあるため、生産地を広げてリスク分散を図る。地元だけでなく、道内各地の生産者と連携を深めていきたい。

北海道のブランド力は非常に高い。道内の住民は当たり前前に感じているのかもしれないが、

全国的に見れば大きな強み。その価値を生かした商品開発を進める。

売上高500億円へ

―現状の生産能力は。

四国の工場では1日360万个を生産しており、国内トップクラスと自負している。ただ需要はさらに伸びており、能力増強が必要だった。

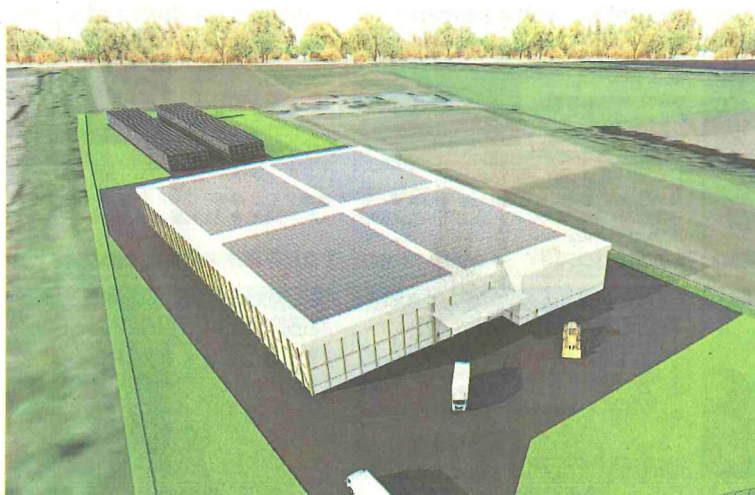
―商品展開の考えについて。

コロッケを軸にしながら、カレーを使った商品や地域とのコラボ商品など幅広く展開してい

る。北海道産原料を使った新商品も増やしていく。家庭用だけでなく、外食や中食、コンビニ向けなど全方位で展開している。関東や関西ではすでに一定の地位を築いたが、北海道でも存在感を高めたい。

―業界の現状と今後の経営戦略を。

業界内では、設備投資の負担



ジャガイモ集出荷貯蔵施設のイメージ（宮坂建設工業提供）

などから撤退するメーカーも出ている。得意分野に特化し、強みを伸ばすことが重要。中途半端に商品の種類を広げるのではなく、コロッケを中心に専門性を高め、強い分野をさらに強くする。現在の売上高は約300億円規模。できるだけ早く500億円に到達したい。

―改めて北海道での将来展開について。

単なる進出企業ではなく、『北海道のメーカー』と認識される存在になりたい。地元・足寄町と共に成長し、北海道を拠点にさまざまな可能性を広げる考えだ。原料、生産、商品開発のすべてで発展させていく。

味のちぬや 2004年創業。香川県のほか東京本社も配置する。冷凍ジャガイモコロッケなどのシェアは国内トップ。25年3月期の売上高は287億円。足寄町内で41億円を投入し整備するジャガイモの新貯蔵施設（7000ト）規模は来年2月に完成、既存施設と合わせて貯蔵能力は1万3000トになる。